

事前質問No. 1

事務室について

- ・貴提案には「時々で適した場所を選べる働き方（A B W）に対応したオープンオフィスです。」とあります。貴案の中のどの場所がそれに対応し、そこでどのような活動を想定されていますか説明ください。
- ・働き方が多様化する中、厚木市庁舎職員の知的生産性を向上させる働き方を実現するための空間はどのようなべきか、貴提案に即して考え方を説明ください。
- ・市職員の知的生産性と創造性向上への寄与という視点から、図書館、未来館をどのように活用できるか貴提案に即して考え方を説明ください。

●時々で適した場所を選べる働き方（A B W）に対応したオープンオフィスについて

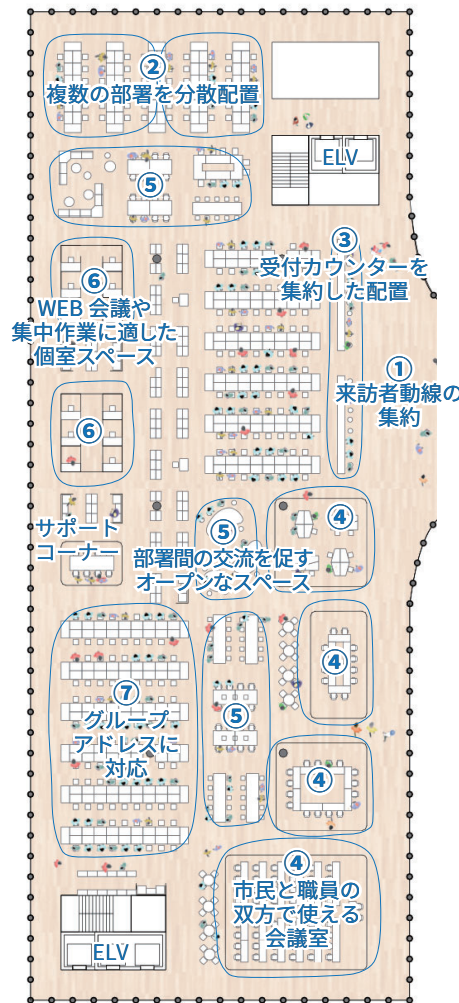
庁舎棟4階以上の市庁舎執務フロアは、

- ①来訪者の動線を南側に集約
- ②複数の部署を適度に分散配置
- ③集中カウンターで受付
- ④市民と職員の双方で使える会議室
- ⑤部署間のオープンなコミュニケーションスペース
- ⑥オンライン会議や集中作業に適した個人 / 少人数の個室ブース
- ⑦部署内はグループアドレスで対応

などの特色を持つ「オープンオフィス」とする提案です。日常的な部署間のコミュニケーションから、部署間の垣根を超えたプロジェクトの必要性に対する「気づき」「課題発見」を醸成し、様々な活動を職員自らが作りだしていけるオフィスとします。



庁舎棟：執務室イメージパース



庁舎棟：4階平面イメージ 北

●市職員の知的生産性と創造性向上への寄与という視点から、図書館、未来館をどのように活用できるか

- ・1, 2階の窓口フロアでは、市民健康部、福祉部、こども未来部の部署に関連した情報を展示・配架し、人・モノ・情報によるハイブリッドサービスを市民に提供すると共に、市職員の課題発見に貢献します。
- ・4階のオープンオフィスフロアでは、接続した広場棟「学びの二八」に協働安全部の部署に関連したテーマ展示・配架を図書館・未来館と協働で行うことにより、市職員の創造性向上に貢献します。
- ・8階のプロジェクトオフィスフロアにはこども未来部の一部や市民協働推進課を配置、接続した広場棟「創造の二八」での活動との日常的な交流・連携から、市民・企業・大学などの協働プロジェクトの必要性を「発見」し「プロジェクトオフィス」としてテンポラリーに配置していく「未来型」の市庁舎を実験・実践していきます。

●働き方が多様化する中、厚木市庁舎職員の知的生産性を向上させる働き方を実現するための空間はどのようなべきか

- ・市職員の知的生産性の向上には、①他部署や市民などの関係者から常に刺激を受け②それらに呼応した変化のある働き方を③職員自らが選んでいける空間が重要だと考えます。
- ①私たちの提案は庁舎と図書館・未来館を「並べて・結ぶ」ことであり、低層・高層で構成する場合に比べ格段に市職員が市民活動を日常的に肌感覚で接することができ、その刺激の中から新たな「気づき」「課題発見」が生まれます。
- ②庁舎棟は約80m×約40mの平面の内部に6本の柱を配置したセミチューブ構造とし、階高を抑えながらも梁型を現して「間接照明・放射空調・タスクアンビエント」の開放感のあるオープンでフレキシブルな空間です。その中にパビリオン型の会議室やパーティション・家具の設えにより変化に富んだ空間をつくります。
- ③職員は、にぎやかな場所、落ち着いた場所、多人数の場所、少人数/個人の場所を、集中作業やディスカッションなどTPOに合わせて選んでいくことができます。

事前質問No. 2

構造計画について	<p>セミチューブ構造を提案されています。これについて次の項目について説明ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免震構造である庁舎棟と耐震構造である広場棟の構造的使い分けの理由 ・両者の構造的関係とそれの空間ならびに外観への影響 ・広場棟は無柱の大スパン構造で提案されていますが、無柱でなければならない理由と無柱空間を実現するための構造計画の概要 ・これらの構造システム実現に要する費用の妥当性（概略の数値を示して説明ください。）
----------	--

●免震構造である庁舎棟と耐震構造である広場棟の構造的使い分けの理由

- ・「庁舎棟」は災害直後から市の「災害対策拠点」としてフル稼働することが求められる為、被災後も全ての機能を保持できる「免震構造」とすることが相応しいと考えます。
- ・一方「広場棟」は災害後からの時間の経過とともに、「一時避難場所」→「被災者支援拠点」→「復興支援拠点」としての役割を担いますが、現在の耐震設計法で設計された建物は大地震時にもほとんど被害を受けていないこと一般の建物よりも1.25倍の安全率を見込むことを考慮して「耐震構造」とすることで全体のコストバランスを取ることをご提案します。

●両者の構造的関係とそれの空間ならびに外観への影響

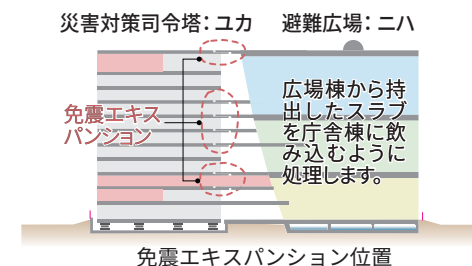
- ・「庁舎棟」と「広場棟」を繋ぐブリッジ状の床面は、構造上は主に「広場棟」のほうに接続されており「庁舎棟」との接続部でスライドする機構のエキスパンションジョイントで免震による大きな変形を処理するものとします。
- ・エキスパンションカバーは外観上目立たないように、外壁と色調を合わせます。
- ・内部のエキスパンションカバーも床材、壁材、天井材で仕上げたカバーを採用し、目立たない工夫をします。

●広場棟は無柱の大スパン構造で提案されていますが、無柱でなければならない理由と無柱空間を実現するための構造計画の概要

- ・私達は市民活動の象徴的な空間として「広場」を提案したいと考えています。高い天井高によって屋外にいるような雰囲気を与えると同時に、構造体としてのコロネードが周囲を取り囲むことで、まるで各層異なる広場が積層されているような、印象的な風景をつくり出したいと考えています。柱が内側に入ってしまうと内部空間としての印象を強め、象徴的な「屋外広場」としての空間的印象が薄れてしまうと考えました。
- ・ただし「広場棟」は完全に無柱ではなく2つのコア部分には柱を設けますが、できるだけ大スパン空間を実現できるように検討していく予定です。その構造としては、手間の少ない組立てH形鋼を並べる形式とします。梁成を1.5～2mと大きく取ることによって鉄骨量を少なくすることができます。

●これらの構造システム実現に要する費用の妥当性（概略の数値を示して説明ください。）

- ・全体工事費予算 216 億円のうち、広場棟の工事費は約 80 億円（約 220 万円/坪）を予定しています。
- ・広場棟の工事費のうち構造躯体工事の割合は約 37%、約 30 億円を予定し、躯体の各工事費は右表の内訳で試算しています。
- ・「庁舎棟」「広場棟」ともチューブ構造部分を形成する外周の柱は太めで薄肉の鋼管を使うことによって鉄骨量を軽減します。柱が太めでも外周に並べるので内部空間で視界を遮ることを避けられます。これによって「庁舎棟」では通常 11 階建てで鉄骨量が 190kgf/m² 程度になるところ、免震構造であることも考慮し 15%程度低減して 160kgf/m² 程度とすることを考えています。
- ・「広場棟」では梁を上記のようなシンプルで鉄骨量の少ない構造とすることで、270kgf/m² 程度に抑えることを考えています。
- ・大スパンとすることで鉄骨量はやや多めになりますが、広場棟は面積が少ないので、以上を全体で平均すると 191kgf/m² 程度となり、全体としては大きな鉄骨量の増加は少なく、実現できる試算です。
- ・上記の通り、広場棟の梁成を調整する、2つのコアの大きさや位置の微調整・最適化を行うなど、さらに鉄骨量を抑えることも可能と考えます。



コスト検討

広場棟	税込み (円)
工事費	約 8,000,000,000
構造	約 3,000,000,000

広場棟躯体概算

項目	金額 (円)
1, 土工事	約 43,000,000
2, 特殊基礎工事	約 58,000,000
3, コンクリート工事	約 110,000,000
4, 型枠工事	約 90,000,000
5, 鉄筋工事	約 83,000,000
6, 鉄骨工事	約 1,900,000,000
直工 合計	約 2,284,000,000
経費・税込 (×1.32) 合計	約 3,000,000,000

事前質問No. 3

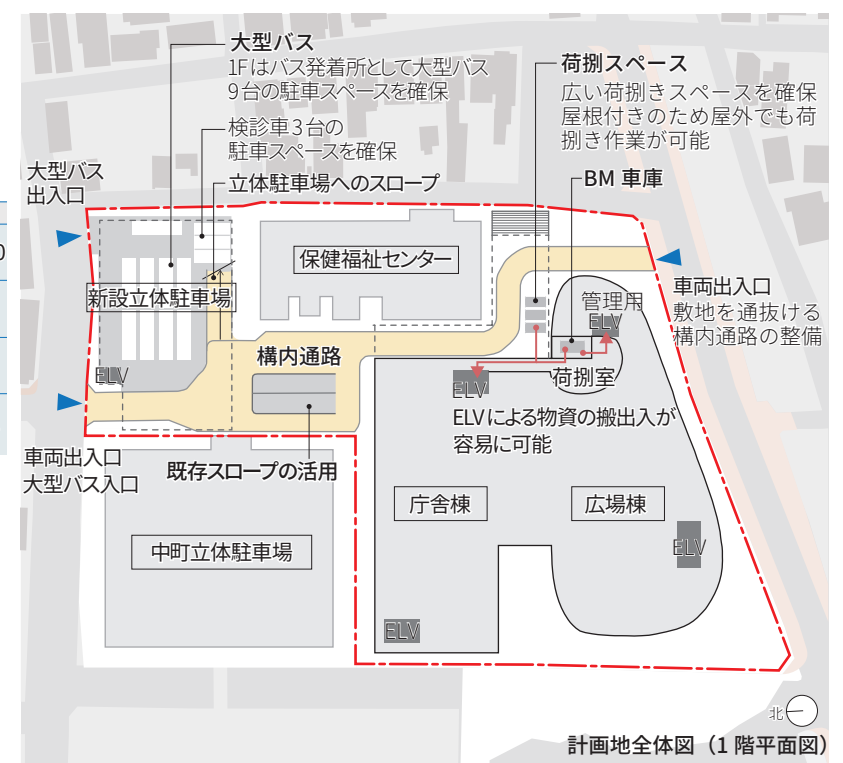
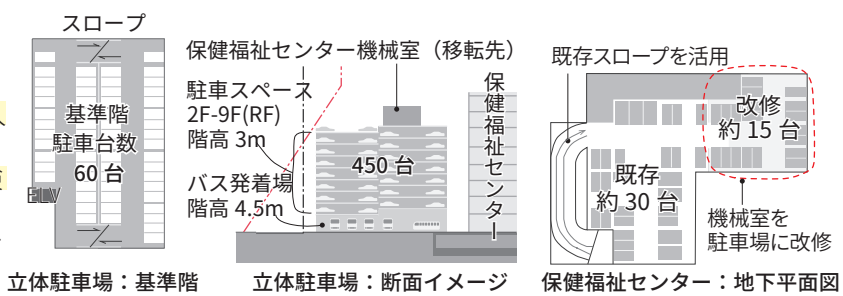
自動車交通計画について

・貴提案の中で自動車交通計画に関する次の項目（自動車の出入口、駐車場の位置や概略規模、構内道路を含む導入路、駐車台数、整備工程、そのほか計画の特徴を示す上で必要な事項）について、計画地全体図上に示してください。併せて、図書館や市庁舎オフィスにおける図書・物資等の搬出入についても同じ図中に示してください。また、計画駐車台数は保健福祉センター駐車場を合わせても要求を下回っています。それについての見解を述べてください。

※業務実施方針書、技術提案書テーマ1に記載の駐車台数は立体駐車場 420 台、保健福祉センター地下 30 台でしたが、台数を精査した結果、下記の台数を確保することが可能です。

●自動車交通計画（出入口、位置と規模、構内道路、台数等）

- ・車両の主出入口は北側道路からとし、構内道路を通じて南側道路からも出入りできる計画とします。
- ・立体駐車場の1階に大型バス9台、検診車3台の駐車スペースを配置し、2階～9階はスキップフロア型の駐車場 450 台を計画します。
- ・保健福祉センターの既存地下駐車場への動線は既存スロープをそのまま利用し、既存駐車場約 30 台とは別に、機械室移転後のスペースに約 15 台の駐車場を計画します。



駐車台数表

	B1F	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	計	
立体駐車場	-	-	30	60	60	60	60	60	60	60	450	
大型バス	-	9	一般車両と公用車両合計で450台の駐車スペースを確保									9
検診車	-	3	既存駐車台数(約30台)と機械室を駐車場に改修(約15台)									3
保健福祉センター	45											45

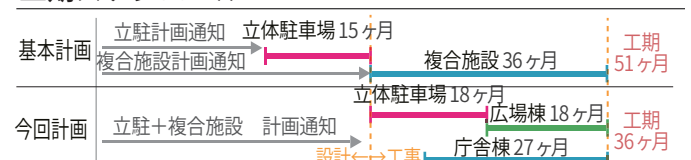
●図書館、市庁舎の搬出入の位置

- ・2階デッキ下の構内道路に面した広場棟1階に荷捌きスペースを配置し、広場棟内部には移動図書館（BM）車庫を設けます。
- ・図書館へは広場棟の管理用ELVを利用、庁舎棟へは直近のELVを利用して各階へサービスします。

●立体駐車場を含めた工事手順・整備工程

- ・ご提示いただいた整備検討図では複合施設の実設計期間中に先行して立体駐車場を完成させ、その後に複合施設 36 か月の工事が予定されていました。
- ・上記は立体駐車場のみの敷地約 1,730 m²での計画の為、400%の容積で約 8,700 m²、228 台の整備に留まっています。
- ・今回提案では、複合施設の実設計終了後に、立体駐車場→庁舎棟→広場棟の順に着工し、立体駐車場部分も全体敷地での容積カウントとすることで、約 14,600 m²、450 台の立体駐車場を整備することが可能です。
- ・地下駐車場の中止による全体工期短縮により、立体駐車場を含め当初の 36 か月で工事を完了することができます。

工期スケジュール



工事ステップ図

- STEP1:** ペDESTリアンデッキ解体と同時に、大型バス発着場を敷地南西に移転
- STEP2:** 立体駐車場と工期の長い庁舎棟を着工します。
- STEP3:** 早期に完成する立体駐車場を仮使用し、大型バス発着場を共用開始。広場棟を着工し、庁舎棟と同時に完成させます。

